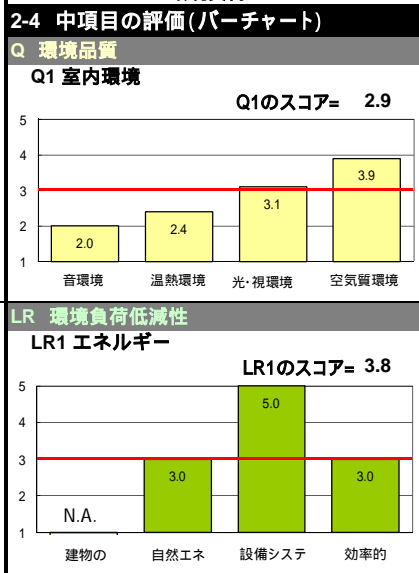
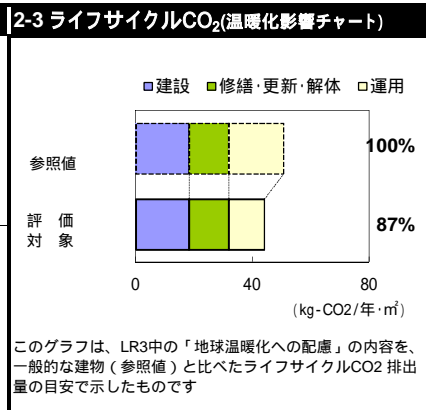
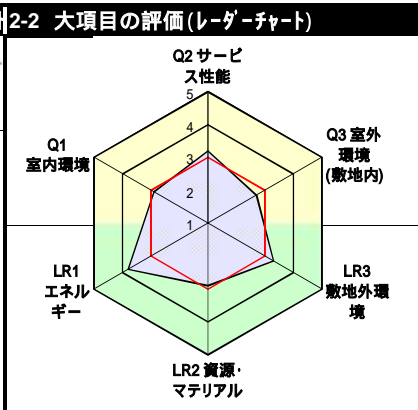
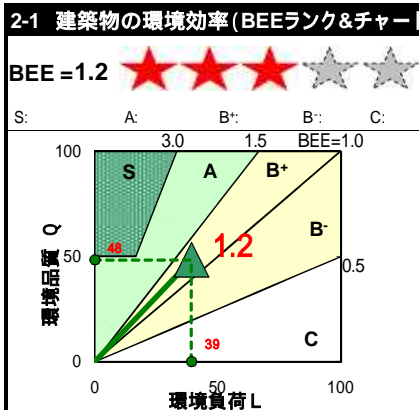


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)次期環境事業センター整備事	階数	地上6F
建設地	平塚市大神字下堤外3230番1の一部	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	135 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2011年3月7日
敷地面積	12,845 m <sup>2</sup>	作成者	五洋建設(株)
建築面積	5,217 m <sup>2</sup>	確認日	2011年3月10日
延床面積	10,007 m <sup>2</sup>	確認者	荏原環境プラント(株)



### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>利用者の利便性、健康性を考慮しバリアフリーへの配慮を行うとともに、館内禁煙化を計画している。</p> <p>敷地内に豊富な緑地を計画し良好な景観、環境を形成している。</p> <p>節水への取り組みや雑排水利用システムの採用により水資源の保護を図っている。</p>	0
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>室内空気質を保つために内装材のほぼ全面にF を採用し、発生源対策を行っており、館内は全面禁煙としている。</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>敷地の植栽条件に応じた適切な緑地づくりをしている。また、緑地を設けることで景観にも配慮している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>照明システムの高効率化を図っている。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>自転車置き場を確保し利用者の利便性を図っている。管理用車両の駐車スペースを確保している。</p>
<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>空調・給排水設備に長寿命の管種を使用しており更新必要間隔が長い。地下への電気・通信設備の設置を避けるなど信頼度の高い取り組みをしている。25%増しの耐震性を有し、一人あたりの執務スペース、天井高さが充分ある。</p>	
<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>節水コマに加え省水型機器を使用している。また雑排水利用を計画し水資源の保護を図っている。</p> <p>躯体と仕上げ材の分別が比較的容易で部材の再利用の可能性向上に取り組んでいる。</p> <p>ハロン消火剤を使用していない。</p>	

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される